

証券コード：7844（東証1部）

株式会社マーベラスAQL



2014年3月期 第2四半期

決算説明会

2013年11月7日

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

2014年3月期 第2Q(累計)決算概要

2014年3月期 セグメント別進捗状況

当社の重点的な取組みと

2014年3月期 業績予想

2014年3月期 第2Q(累計) 決算概要

**コンシューマ事業の拡大を中心に、
前年同期比で大幅な増収増益を達成し、
上半期として過去最高益を更新**

**オンライン事業は、タイトル数の増加により
売上は順調に拡大したものの、リリース遅延や
一部タイトルの不振により利益減**

**総合エンターテインメント企業としての強みを活かした
戦略を実行し、企業規模拡大と収益性向上を図る
とともに上期業績をステップに通期計画達成を目指す**

第2Q(累計) 業績ハイライト

売上高 **95.8億円**

前年同期比 **21.3%UP**

営業利益 **13.6億円**

前年同期比 **23.5%UP**

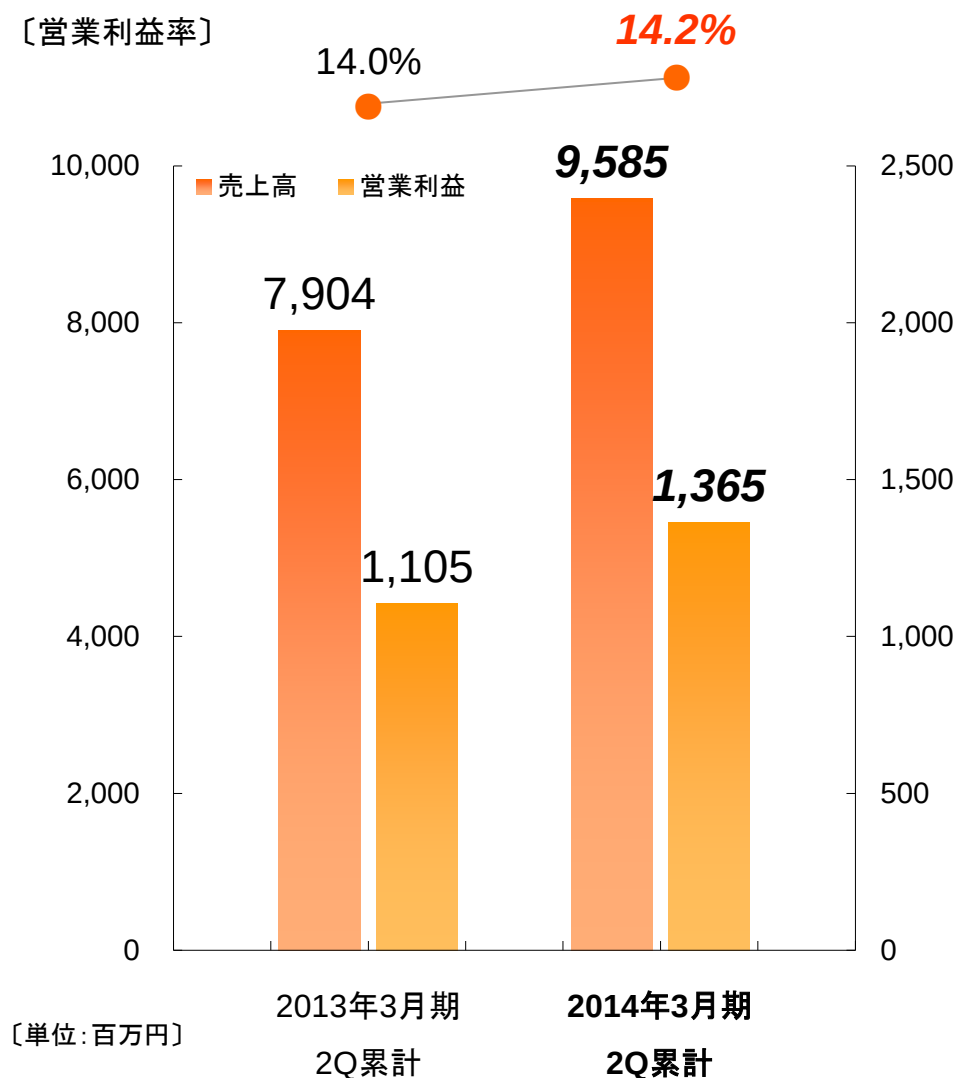
営業利益率 **14.2%**

前年同期比 **0.2%UP**

〈主な要因〉

- ・ポケモンレッタの好調継続
- ・コンシューマゲームソフトの販売好調

〔営業利益率〕

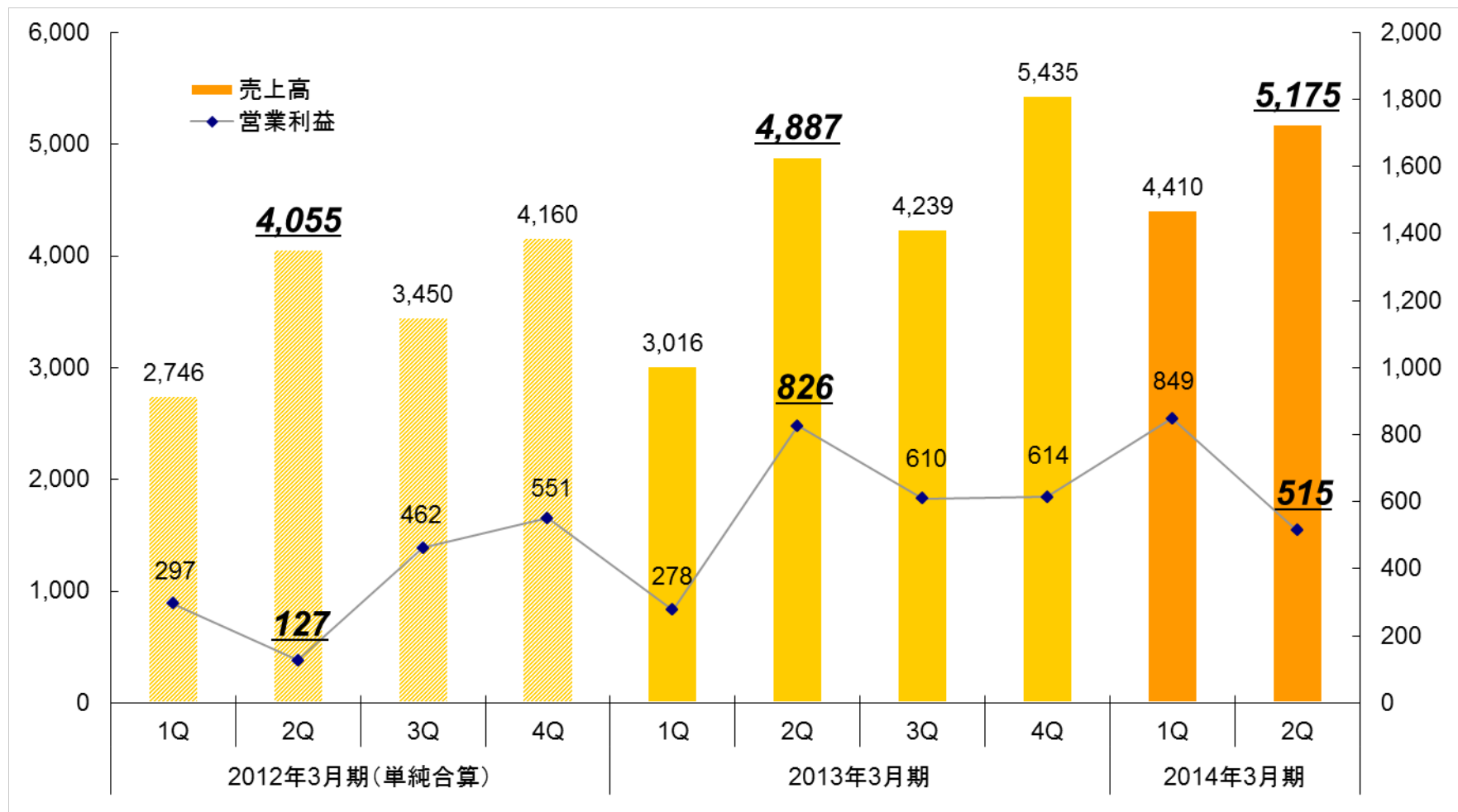


第2Q(累計) 業績ハイライト(P/L)

(単位:百万円)	2013年3月期 2Q累計		2014年3月期 2Q累計				修正業績予想 (8月7日発表)	
	実績	利益率	実績	利益率	前年同期比 (金額)	前年同期比 (率)	2Q累計	達成率
売上高	7,904		9,585		1,681	121.3%	9,600	99.8%
売上原価	4,101		4,903		801	119.6%		
販管費	2,697		3,317		619	123.0%		
営業利益	1,105	14.0%	1,365	14.2%	259	123.5%	1,110	123.0%
営業外損益	▲ 83		20		104	—		
経常利益	1,021	12.9%	1,385	14.5%	363	135.6%	1,110	124.8%
特別損益	—		▲ 12		▲ 12	—		
法人税等	376		512		136	136.2%		
四半期純利益	645	8.2%	860	9.0%	215	133.4%	670	128.5%

前年同四半期比で順調に事業規模拡大

(単位: 百万円)



第2Q 業績ハイライト セグメント別概況

(単位: 百万円)	2013年3月期 2Q累計	2014年3月期 2Q累計		
	実績	実績	前年同期比 (金額)	前年同期比 (率)
● オンライン事業	3,331	3,960	628	119%
● コンシューマ事業	3,110	3,763	653	121%
● 音楽映像事業	1,462	1,860	398	127%
売上高 計	7,904	9,585	1,681	121%
● オンライン事業	460	218	▲ 242	47%
● コンシューマ事業	745	1,273	528	171%
● 音楽映像事業	344	350	5	101%
セグメント利益 計	1,550	1,842	291	119%
調整額・消去等	▲ 445	▲ 477	▲ 31	107%
営業利益 計	1,105	1,365	259	123%

Point

オンライン事業

- ・PC向けは市場環境とともに減少
- ・モバイル向けは新作の投下も貢献し順調に拡大
- ・北米向けの不振タイトルを中止一括償却

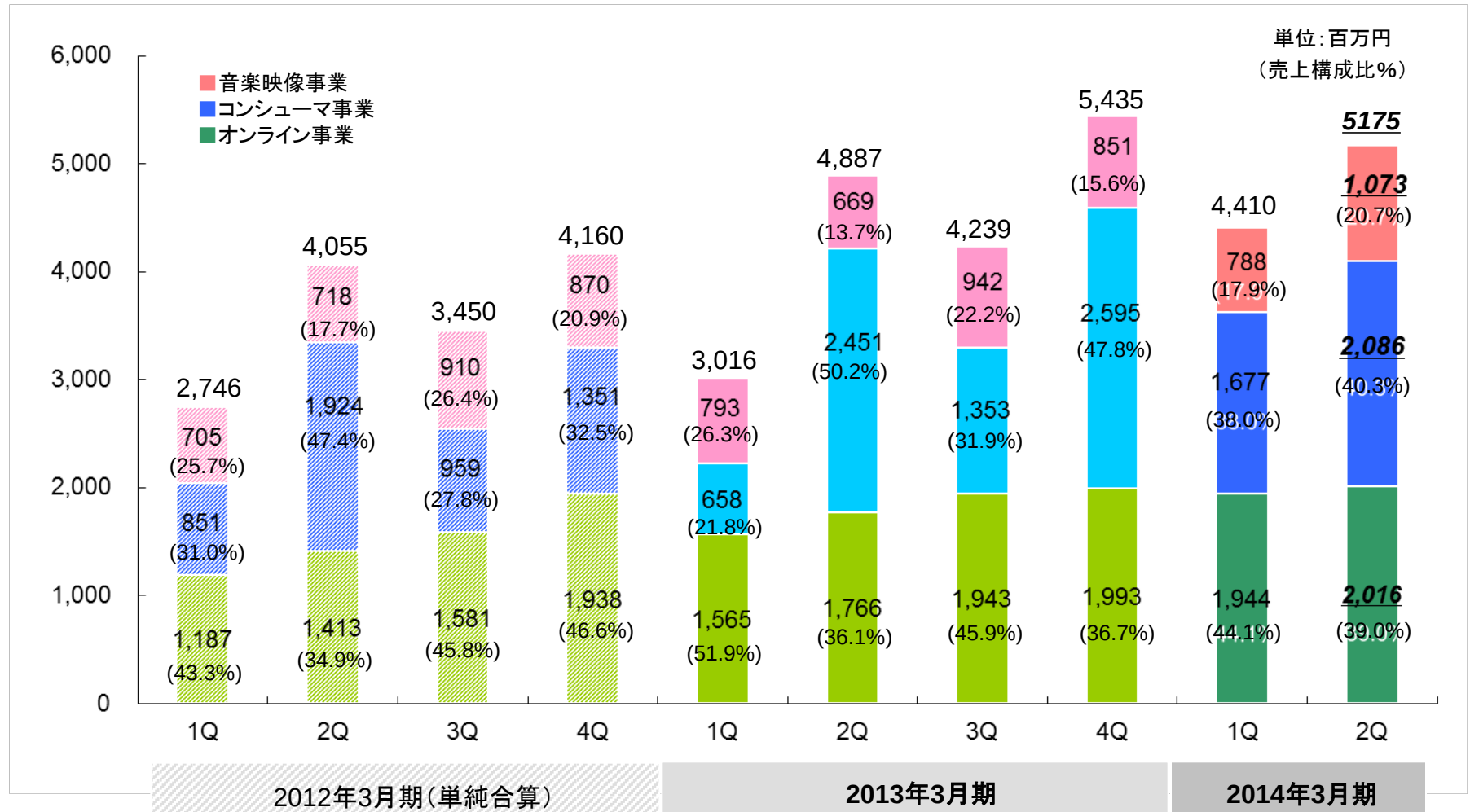
コンシューマ事業

- ・ポケモンレッタが継続ヒットにより大きく収益貢献
- ・コンシューマゲームソフトの販売が新作・旧作ともに好調

音楽映像事業

- ・看板タイトルを中心に底堅く収益確保
- ・舞台「弱虫ペダル」も主力シリーズとして定着

コンシューマ事業をはじめ、各事業とも堅調に事業を拡大



- 現預金増加及び下期以降に発売予定のコンシューマゲームソフトの開発に伴う棚卸資産の増加により流動資産増加
- 投資有価証券の売却等により固定資産減少
- 利益計上により純資産増加

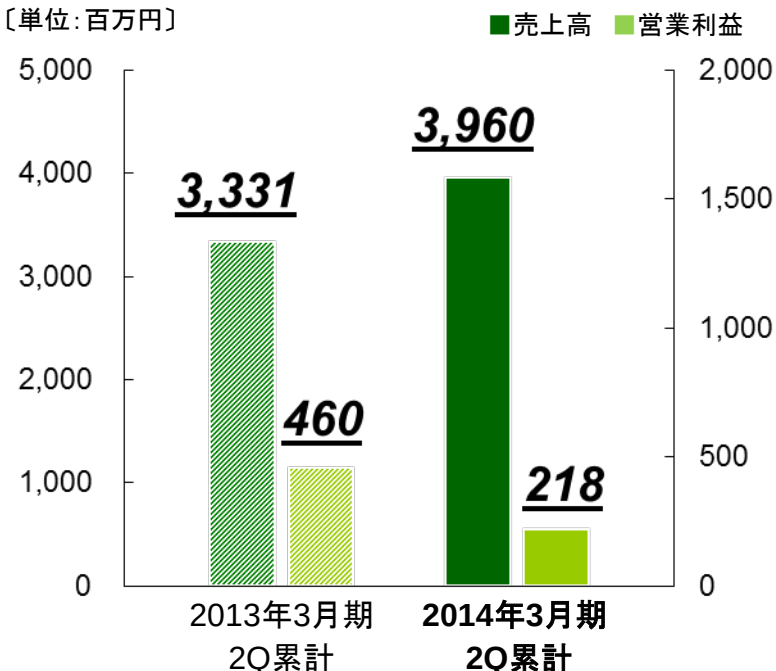
(単位:百万円)	2013年3月末	2013年9月末	増減額
流動資産 計	12,593	12,887	294
固定資産 計	2,748	2,597	▲ 150
資産合計	15,341	15,484	143
流動負債 計	4,570	4,526	▲ 43
固定負債 計	76	62	▲ 14
負債合計	4,647	4,589	▲ 58
純資産合計	10,694	10,895	201

2014年3月期 セグメント別の進捗状況

第2Qの状況

- 〈売上〉 **タイトル増加により伸長**
- 〈利益〉 **新規タイトル立ち上がりの遅れや海外タイトルの償却等により利益減**
- 〈タイトル状況〉
 - 「一騎当千バーストファイト」が前期比で大きく成長
 - 8月よりGREE向け「聖戦ドラゴンオーブ」をサービス開始
 - 9月よりMobage向け「ハイスクールD×D」をサービス開始、好調なスタート
 - 海外向けタイトルの一部を不採算により償却

〔単位:百万円〕



タイトル展開

「一騎当千バーストファイト」
(モバイル)
2012年5月サービス開始



©2011 塩崎雄二・ワニブックス／一騎当千集闘士血風録パートナーズ
©MarvelousAQL Inc.

「閃乱カグラ NewWave」
(モバイル)
2012年11月サービス開始



©MarvelousAQL Inc.

「聖戦ドラゴンオーブ」
(モバイル)
2013年8月サービス開始



©MarvelousAQL Inc. Developed by entersphere

「ハイスクールD×D」
(モバイル)
2013年9月サービス開始



©2013 石踏一榮・みよま零/富士見書房/ハイスクールD×D NEW製作委員会
©MarvelousAQL Inc.

第3Q以降の展開

- ヒットタイトル創出に向けた挑戦を継続し、特にモバイルコンテンツへ最大注力、ネイティブアプリを下期数タイトルリリース予定
- 主力ロングヒットタイトルの堅調維持
- 10月で2周年を迎えたロングヒットタイトルPCブラウザゲーム「剣と魔法のログレス」のネイティブアプリを鋭意開発中、今冬リリース予定

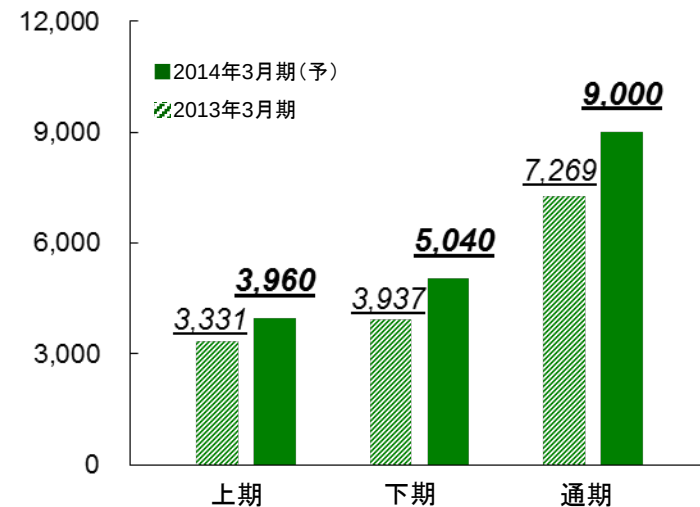
タイトル展開

「剣と魔法のログレス いにしえの女神」(モバイル)
今冬サービス開始予定

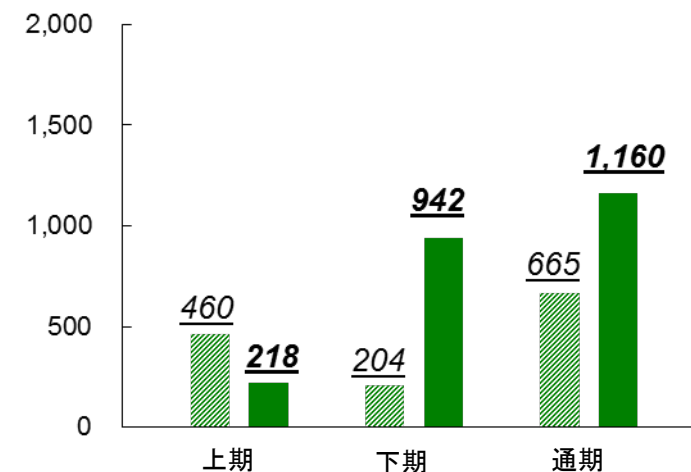


©MarvelousAQL Inc. Aiming Inc.

売上高 (単位:百万円)



セグメント利益 (単位:百万円)



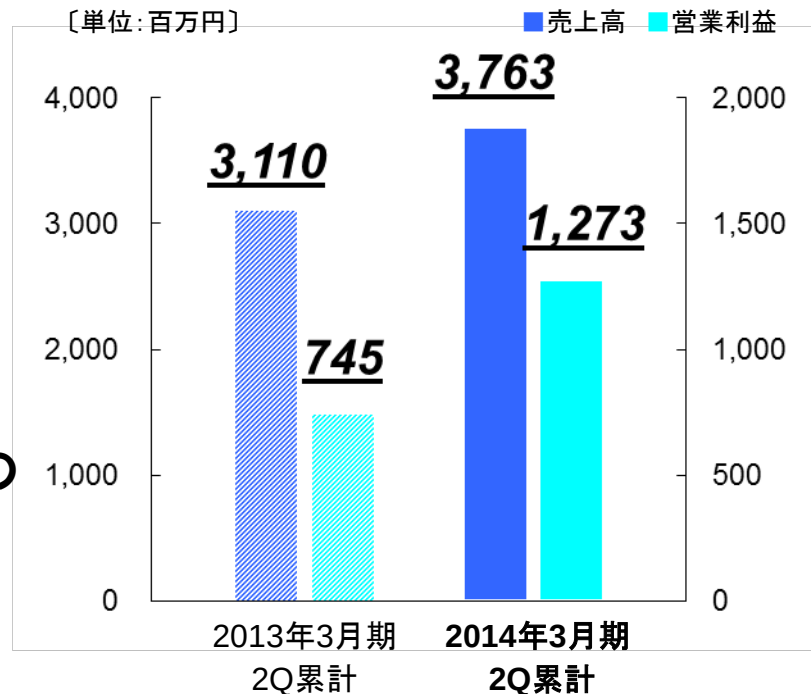
第2Qの状況

〈売上〉 **大幅に拡大**

〈利益〉 **前年同期比5億円増**

〈タイトル状況〉

- 前期7月にサービス開始の「ポケモンレッタ」が引き続き好調を維持
- 新作「ヴァルハラナイツ3」(PS Vita)が8.2万本の順調なセールス（※上半期のみの販売実績）
- 前期末に発売したゲームソフト各タイトルのリピート受注が好調に推移



タイトル展開

ポケモンレッタ
(アミューズメント)
2012年7月より好評稼働中



©2013 Pokémon.
©1995-2013 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.
Developed by T-ARTS and MAQL

ヴァルハラナイツ3
(PS Vita)

2013年5月23日発売



©2013 MarvelousAQL Inc.

閃乱カグラ SHINOVI VERSUS
-少女達の証明-
(PS Vita)

2013年2月28日発売



©2013 MarvelousAQL Inc.

朧村正
(PS Vita)

2013年3月28日発売



©2009, 2013 MarvelousAQL Inc.

第3Q以降の展開

- キラーコンテンツ「牧場物語」のシリーズ2年ぶりの新作「牧場物語 つながる新天地」を2014年2月にリリース
- PSP向け完全オリジナル新作「幕末Rock」を2014年2月にリリース
- 引き続き「ポケモンレツタ」の収益最大化に注力

タイトル展開

牧場物語 つながる新天地(3DS)

2014年2月発売予定



©2013 MarvelousAQL Inc. All Rights Reserved.

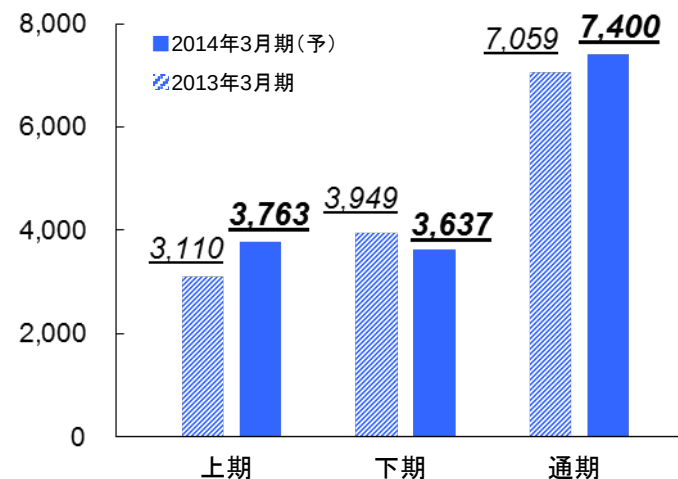
幕末Rock(PSP)

2014年2月27日発売予定

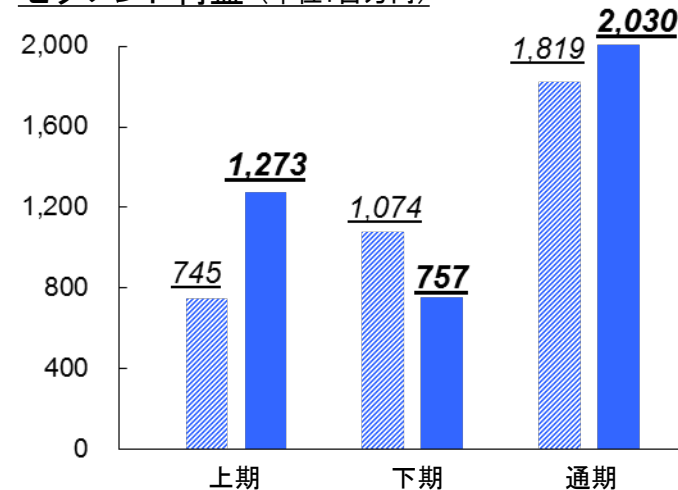


©2013 MarvelousAQL Inc.

売上高 (単位:百万円)



セグメント利益 (単位:百万円)



第2Qの状況

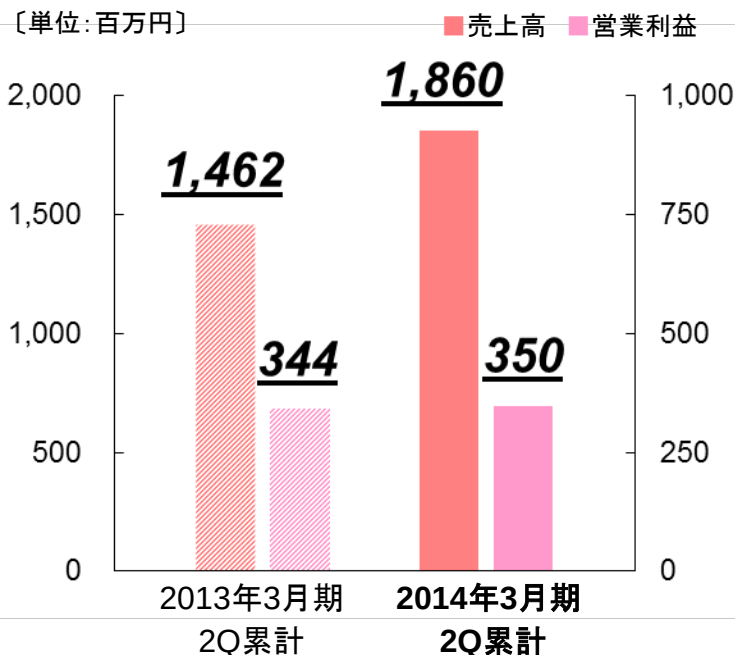
〈売上〉 **舞台興行の規模拡大により増加**

〈利益〉 **前年並みの利益を確保**

〈タイトル状況〉

- 主力の定番コンテンツ「プリキュア」シリーズ、『ミュージカル「テニスの王子様」』シリーズが堅調に推移
- 劇場映画「AURA」の公開、主幹事TVアニメ作品「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。」を放送し、それぞれパッケージ販売
- 舞台『弱虫ペダル』が主力シリーズとして定着、パッケージ販売、観客動員ともに好調に推移

タイトル展開



ドキドキ！プリキュア
2013年2月3日よりTV放送開始



© ABC・東映アニメーション

ミュージカル『テニスの王子様』
全国大会 青学vs氷帝
2013年7月～2013年9月公演



©許斐 剛／集英社・NAS・新テニスの王子様プロジェクト
©許斐 剛／集英社・テニミュ製作委員会

やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。 AURA～魔竜院光牙最後の闘い～
2013年4月4日よりTV放送開始 2013年4月13日公開



©2013 渡 航、小学館／やはりこの製作委員会はまちがっている。



©2013 田中ロミオ、小学館／AURA FILM PARTNERS

第3Q以降の展開

- 10周年の「ミュージカル『テニスの王子様』」、10作目の「プリキュア」シリーズともに主力タイトルとして継続注力
- 10月公演の「ミュージカル『薄桜鬼』」は、観客動員が順調推移
- 「舞台『弱虫ペダル』」の更なる成長に向けて、継続的な取り組みを実施

タイトル展開

ミュージカル『薄桜鬼』土方歳三 篇

2013年10月公演



©アイディアファクトリー・デザインファクトリー／ミュージカル『薄桜鬼』製作委員会

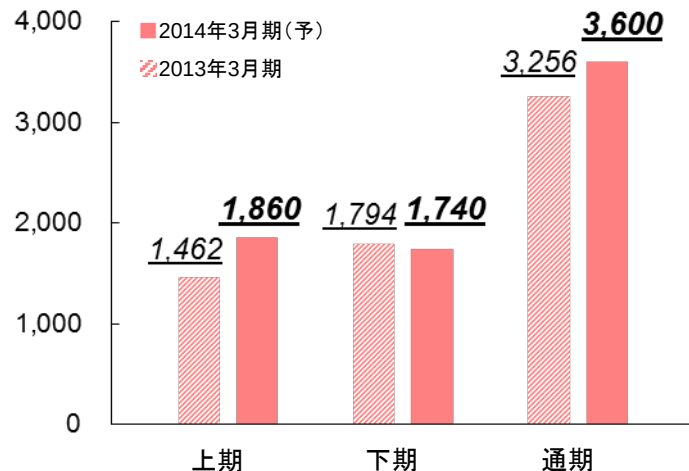
舞台『弱虫ペダル』インターハイ篇
The First Result

2013年8月～2013年9月公演

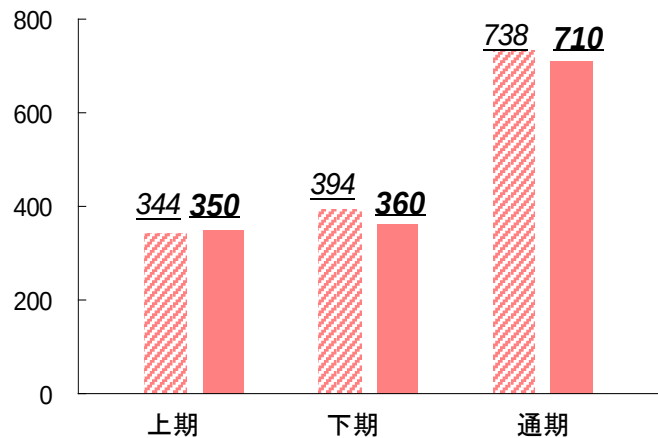


©渡辺航(週刊少年チャンピオン)2008
©渡辺航(週刊少年チャンピオン)／マーベラスAQL、ディー・バイ・エル・クリエーション、イープラス

売上高 (単位:百万円)



セグメント利益 (単位:百万円)



当社の重点的な取組みと 2014年3月期 業績予想

「強力なIPの創出・育成」と「総合エンターテインメント企業」の強みを活かした戦略を強化・拡大・スピードUPし、事業拡大と収益性の向上を目指します

強化・拡大・スピードUP

Next Stage

重点的
取組み

フラグシップタイトルの創出

水平展開事業の拡充

モバイル事業の拡充

海外事業の強化

開発力の更なる向上

- ・上期までの進捗が当初計画を上回ったものの、オンライン事業を中心に変化の激しい事業環境を鑑み、通期予想は据え置き

2014年3月期 (単位:百万円)	上期 実績	下期 予想	通期 予想 利益率	
売上高	9,585	10,415	20,000	—
営業利益	1,365	1,535	2,900	14.5%
経常利益	1,385	1,505	2,890	14.5%
当期純利益	860	910	1,770	8.9%

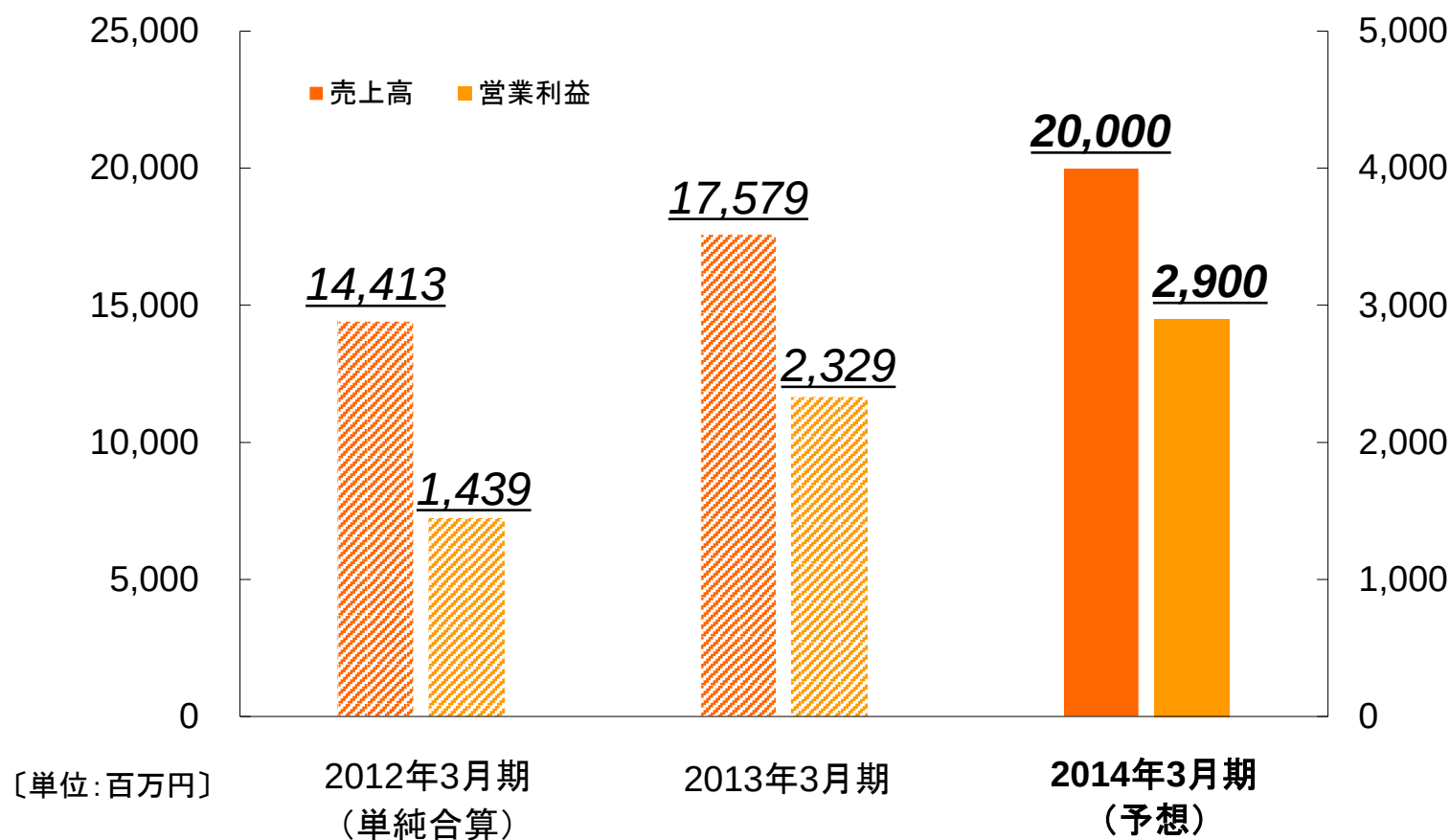
(参考)2013年3月期 (単位:百万円)	上期 実績	下期 実績	通期 実績 利益率	
売上高	7,904	9,675	17,579	—
営業利益	1,105	1,224	2,329	13.3%
経常利益	1,021	1,304	2,325	13.2%
当期純利益	645	1,273	1,919	10.9%

2014年3月期 セグメント別予想

2014年3月期				
(単位：百万円)		上期実績	下期予想	通期予想
売上高	● オンライン	3,960	5,040	9,000
	● コンシューマ事業	3,763	3,636	7,400
	● 音楽映像事業	1,860	1,739	3,600
	売上高合計	9,585	10,415	20,000
セグメント利益	● オンライン	218	942	1,160
	● コンシューマ事業	1,273	757	2,030
	● 音楽映像事業	350	360	710
	セグメント利益合計	1,842	2,058	3,900
調整額・消却額等		▲ 477	▲ 523	▲ 1,000
営業利益合計		1,365	1,535	2,900

2013年3月期実績			
	上期	下期	通期
	3,331	3,937	7,269
	3,110	3,949	7,059
	1,462	1,794	3,256
	7,904	9,675	17,579
	460	204	665
	745	1,074	1,819
	344	394	738
	1,550	1,673	3,223
	▲ 445	▲ 448	▲ 893
	1,105	1,224	2,329

3事業の総合力を発揮し、2桁成長を継続



ご静聴、誠に有難うございました。

〈お問い合わせ先〉

経営戦略室

TEL:03-5769-7447

FAX:03-5769-7448

URL:<http://www.maql.co.jp>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。